

## 牧師室から (2020.9.27)

24 日木曜日の夕方、我が家では事件があった。うちの愛犬アイネが失踪してしまったのだ。

昼過ぎから庭の手入れをしていたが、その間アイネを庭に繋げておいた。通り過ぎる人や子どもたちが寄ってきて撫でたり、話をかけてくれたり、人が大好きなこのワンちゃんを見るのにも楽しそうであった。

しかし、雨が降り始めたので、もっと外にいたがるアイネのリードを外して中に入るよう厳しく声をかけた。すると玄関に向かうかな、と思ったが裏庭に行ってしまった。この頃足の病で歩くのも弱くなっているのに、裏庭にいるか、遠くは行けないだろうと思いながら、土がついている手袋を外して裏の庭に行ってみた。あら～いない。急いで回ってみたが見当たらない。近くの家の庭に入り込んだのではないかと思い、声をかけて探していただいた。それでもいない。外におられたとなりの奥さんに、うちのわんちゃんを見かけなかったのかと声をかけると、探しますとご主人まで出られて、小雨の中であっちこっちに歩き回ってくださった。前の家の男の方にも言ったら、その方も探し始めてくださった。私はあの方、この方に声をかけながら、「アイネ、アイネ」と叫びながら、町中を歩き回った。その時となりの奥さんから声をかけられた、ある見知らぬ女の方が車に乗って来て、「私もワンちゃんを飼っているのでお気持ちが分かります、私が車でゆっくりあっちこちに行ってみます」と探し始めてくださった。通り過ぎながらうちのワンちゃんを見たことがあるらしい。

いつもの散歩コース、公園にもいない、スーパーの周りにもいない、2時間ほど雨の中を歩き回りながらただ祈るばかりだった。名札をつけているのだから明るくなると誰か見つけて連絡が来るのだろう、しかし痛み止めの薬も飲まないといけないし、暗い中、車に轢かれるのではないか、このバカ犬どこにいるのだろうといろいろな思いで、眠れない夜になりそうであった。外出して帰った鈴木牧師も啞然とした表情で、一緒に警察に届け出を出してきた。車を教会の駐車場に止めて、その帰りも「アイネ」と声を出しながら歩いたところ、暗闇の中アイネが私の前にいた。いなくなって3時間が過ぎていた。

となりの奥さんに、あの女の方に、前の男の方に、あっちこちに連絡をすると、自分のことのように喜んでくださった。

アイネは元気そうで、ご飯をパクパク食べた後、ぐったり眠り込んだ。親の気持ち知らない放蕩娘のようだが、眠っている姿が可愛い。やっと胸を下ろして私も寝ることができた。

何よりも、周りの方々に申し訳ない気持ちと共に、まだ慣れていない地で、教会員だけではなく、他の方々にも支えられている実感が湧き上がり、嬉しい気持ちになった。その優しい方々に感謝の気持ちを表したいという思いと共に、神様の恵みと祝福がありますよう心から祈っている。

(鈴木善姫牧師)